TIGER MFG.CO.,LTD. SINCE 1951

（全自動打上式鳥害防止機器）

# ドンピカ LPE－H5型

# 取扱説明書

注）ガスボンベは付属しておりません。


**使用の前に**

安全上の注意 …１～２

お使いの前に…３

プリント基板 …４

**組立と操作**

設置手順の流れ …４

①場所の選定 …５

②埋込みパイプの打ち込み …５

③ポールの組立て …６

④ポールを立てる …７

⑤電子コントローラの設置と配線 …８～９

⑥コントローラーの操作（動作開始） …１０～１１

（使用の中断、停止） …１２

**お知らせ**

故障かなと思ったら …１３～１４

仕様・能力 …１５


- このたびは「ドンピカ」をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
- ご使用前に この取扱説明書の内容をご理解したうえ、ご使用ください。
- お読みになったあとは大切に保管してください。

# 安全上のご注意

本製品の設置および使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
ここに表示されている注意事項は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害・損害を未然に防止するためのものです。
いずれも安全に関する重要な内容なので、必ず守ってください。

■表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を「危険」「警告」「注意」に区分し説明しています。

危険　警告　注意

「してはいけないこと」を示しています。

「しなければいけないこと」を示しています。

## 危険 誤った取扱いをすると、死亡または重傷などを負う危険が切迫して生じることが想定される内容です。

### ■雷発生時の設置・使用の禁止

雷が発生しているときは、本機に近づかないでください。また、設置中の場合は速やかに設置を中止し本機から離れてください。
落雷による感電のおそれがあります。

### ■送電線・配電線の付近での設置の禁止

本機やポール・誘導ワイヤーは送電線・配電線の付近で設置をしないでください。
感電のおそれがあります。

### ■心疾患をお持ちの方は本機に触れない

心疾患をお持ちの方は本機には絶対に触れないでください。
ペースメーカーや医療機器等が影響を受ける可能性があります。

## 警告 誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。

### ■燃えやすいものの近くで使用しない

本機の周囲５ｍ以内には、農作物や樹木などの可燃物を置かないでください。
火災の原因になります。

### ■使用中は本器に近づかない

特に爆音筒をのぞき込んだり、耳を近づけたりしないでください。
失聴、難聴、やけどの原因となります。

### ■本器を改造・加工・修理しない

修理技術者以外、分解・修理しないでください。
故障・破損した場合は使用しないでください。
異常動作の原因になります。

### ■使用中は耳栓をつける

本機を操作したり、やむを得ず使用中に近づいたりする場合は、必ず耳栓をつけてください。
失聴、難聴の原因となります。

### ■心疾患をお持ちの方は本機に近づかない

心疾患をお持ちの方は本機には絶対に近づかないでください。
ペースメーカーや医療機器等が影響を受ける可能性があります。

### ■不安定な場所で使用しない

傾斜地・砂地・泥地など不安定な場所では設置しないでください。
本機が転倒し、火災の原因となります。

### ■危険表示板の設置

他の人々が不用意に近づかないよう、人に見えるところに危険表示板を設置してください。

### ■建物や壁の近くで使用しない

音が反響しやすい建物や壁の近くで使用すると、予想以上の爆音が発生する場合があります。このような場所で使用しないでください。
失聴、難聴の原因となります。

### ■人家の近くや公道の近くで使用しない

目安として、民家から350m以上、公道から100m以上離した場所でご使用ください。また、筒先を民家に向けないでください。

# 安全上のご注意

## 注意 誤った取扱いをすると、人が障害を負ったり物的損害の発生が想定される内容です。

■早朝・夜間の使用は避ける

早朝・夜間の使用は周囲の迷惑になりますので、なるべく使用を避けてください。
また、使用する市町村の騒音に関する条例を遵守して使用してください。

■本体を落としたり、当てたりしない

本機の破損・故障の原因になります。また、万が一破損した場合は使用しないでください。
火災・ケガ・ガス漏れの原因になります。

■高圧コード・ゴム管を傷つけない

高圧コード・ゴム管などを踏んだり、重いものを乗せたり傷つけたりして破損しないでください。
感電・故障・ガス漏れの原因になります。

■水没する場所や湿気の多い場所では使用しない

電子コントローラに水滴がつくと故障の原因になります。
雨量の多いとき水没する可能性がある場所や、湿気が多い場所などでは使用しないでください。
故障の原因となります。

■耳栓をしていても、むやみに近づかない

特に爆風を受ける場所では、耳栓をしていても失聴、難聴になる可能性があります。むやみに近づかないでください。

■風の強いときは使用しない

強風により本機が転倒・破損する場合があります。
風の強さが風速6m以上になったら使用を中止してください。
火災・やけどの原因になります。

■使用中および使用直後は爆音筒に触らない

使用中・使用直後は爆音筒および混合管などが高温になっています。むやみに触らないでください。
やけどの原因となります。

■点検を行う

本機設置後は必ず最低1日1回の安全点検を行ってください。
火災・故障の防止となります。

■弊社純正品以外の使用の禁止

点火プラグや消耗部品などは、弊社純正品を使用してください。
事故や故障の原因となります。

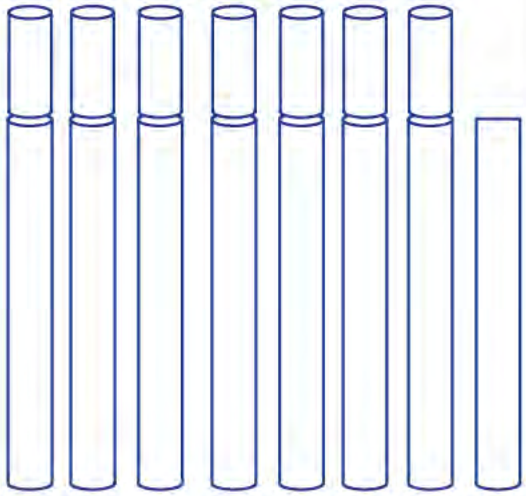
# お使いになる前に

設置を行う前に部材を確認してください。

1．＜発射筒部＞

発射筒完備

ポール完備



ワイヤー完備

ジャバラ

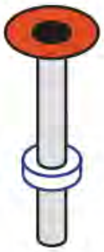
発射体

タカ羽根（黒）２枚

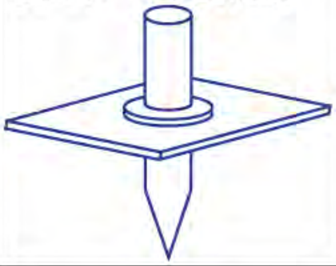
タカ羽根（黄黒）１枚

クッション

発射筒パイプ



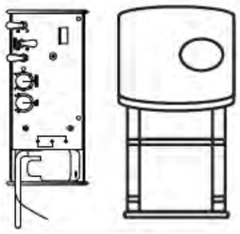
埋込みパイプ・
埋込みパイプ安定板



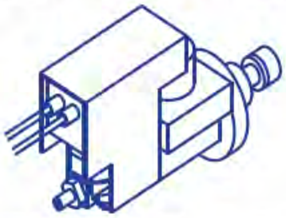
埋込みパイプガイド

コントローラボックス脚

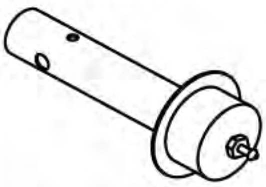
電子コントローラ



調整器・電磁弁バブル完備

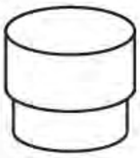


混合管完備

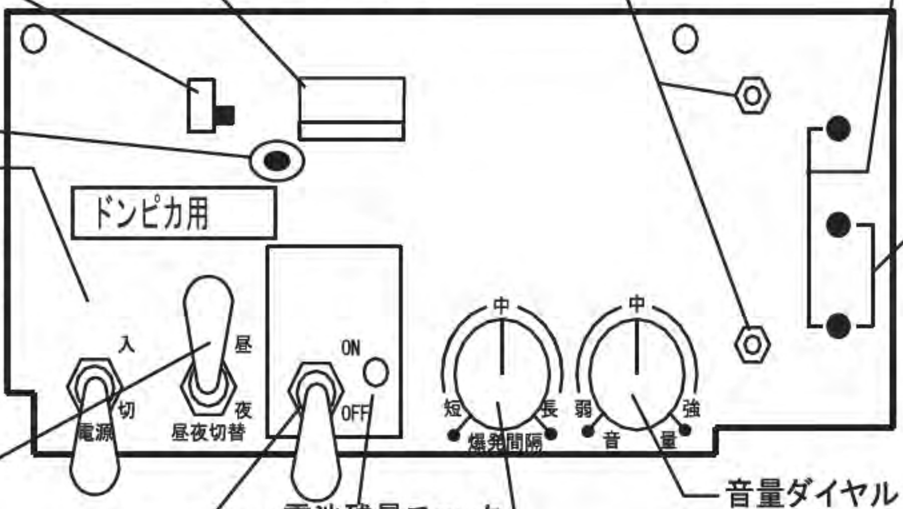


ガス溜付ゴム管

当て金



## プリント基板




**外部入力スイッチ**

**外部入力接続端子**
オプションパーツ（タイガータイマー等）の信号入力を接続します。

**電磁弁コード接続端子**
電磁弁コードを接続します。

**電磁弁チェック端子**
両端の端子を針金などでショートすると電磁弁が開きます。
電磁弁の動作を確認するときに使います。

**光センサー**

**主電源スイッチ**
電源を「入」または「切」にします。
動作を開始する時は入側にスイッチをセットしてください

**点火ユニットチェック端子**
両端の端子を針金などでショートすると点火ユニットが動作します。
点火ユニットの動作を確認するときに使います。

**電池残量チェックランプ**

**音量ダイヤル**
爆音音量を調節します。
「弱」⇒「中」⇒「強」の順で爆音が大きくなります。

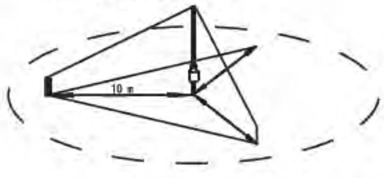
**昼・夜切替スイッチ**
昼運転か夜運転のどちらかに切り替えます。
昼運転の場合は昼側（上）
夜運転の場合は夜側（下）
にスイッチをセットしてください。

**電池チェックスイッチ**
電池残量をチェックします。
スイッチをONにした時電池残量が十分であれば、ランプが点灯します。
また同時に電磁弁に電気が流れます。

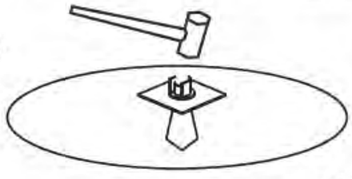
**爆発間隔ダイヤル**
爆発間隔を調節します。
「短」⇒「中」⇒「長」の順に爆発間隔が長くなります。

## 設置手順の流れ

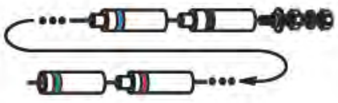
①場所の選定




②埋込みパイプの打込み

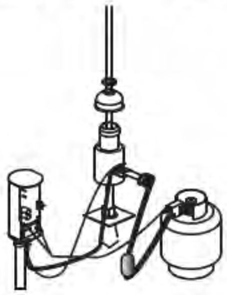


③ポールの組立て

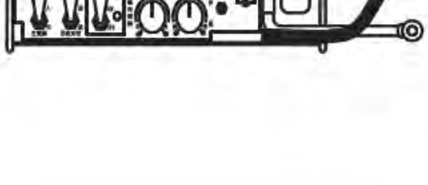


④ポールを立てる

⑤電子コントローラ設置と配線

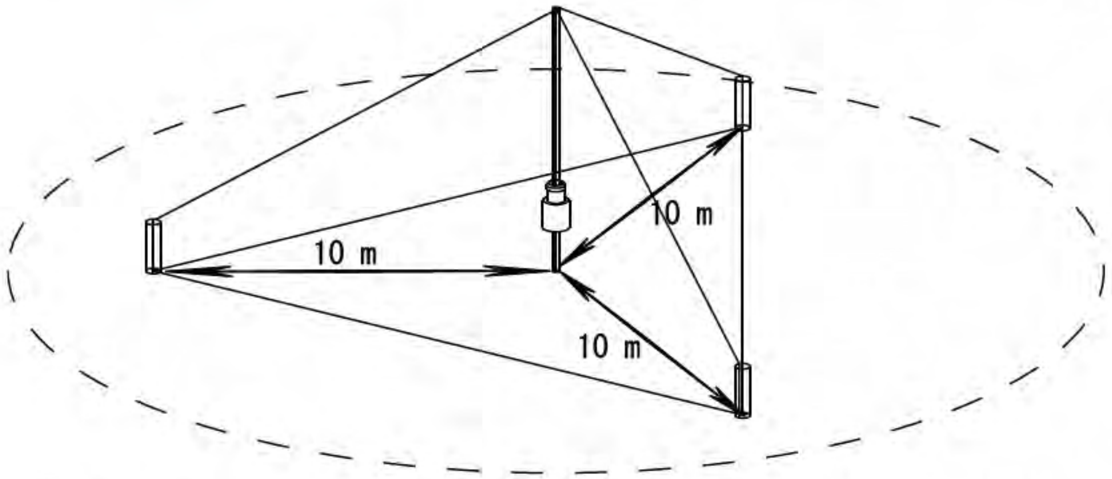


⑥コントローラーの操作

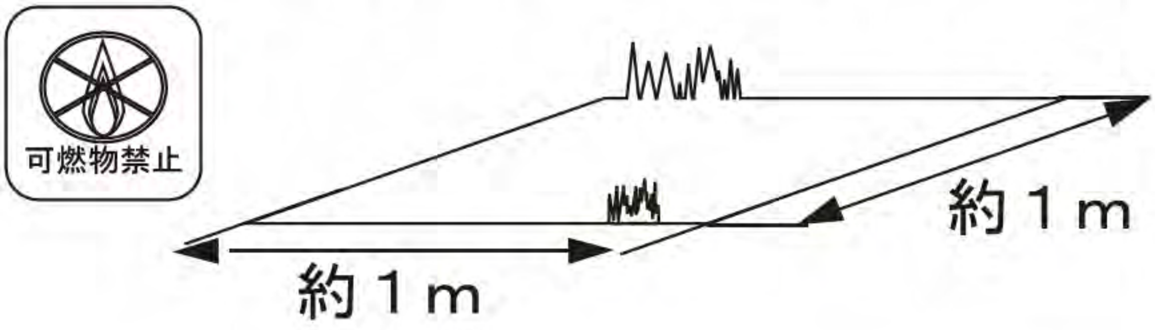


## ①場所の選定

①発射筒本体の設置場所は強風などで倒れないよう張り綱ができるところを選んでください。
張り綱は発射筒本体から約１０ｍ離れた場所に取り付けるようにしてください。
但し、ご使用の環境にあわせ変更してください。

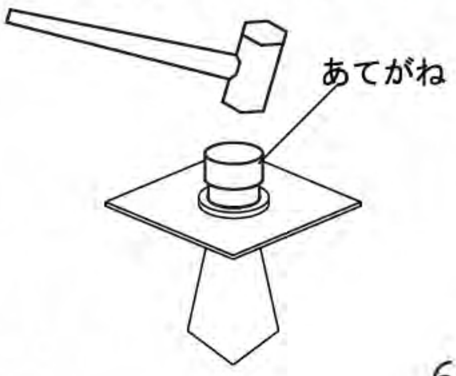



②発射筒本体・電子コントローラ・ガスボンベを設置する場所は約１ｍ四方で平らにならしてください。
発射筒本体の周囲５ｍには、乾燥した草木や農産物など可燃物は撤去してください。



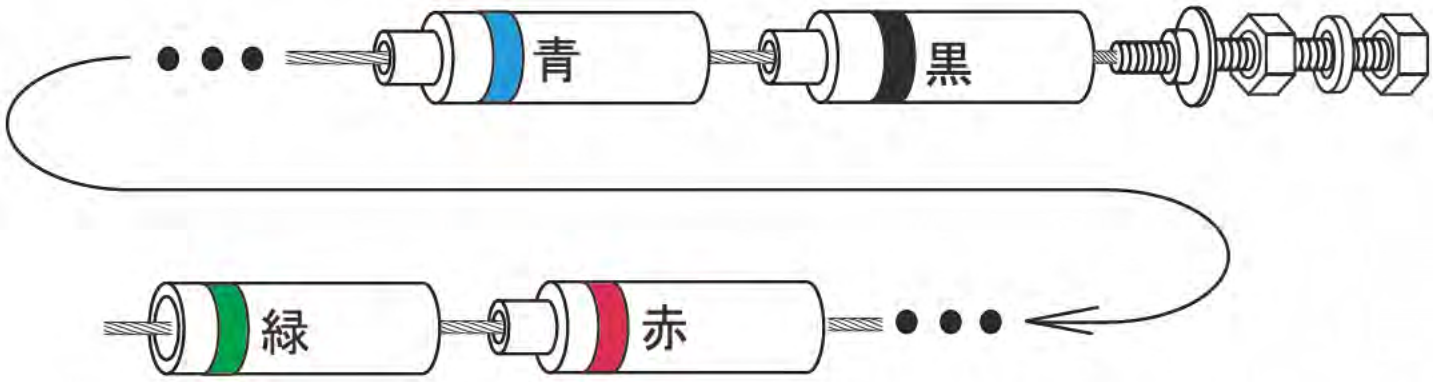

## ②埋込みパイプの打込み

①埋込みパイプ安定板（以下安定板）を地面に設置します。安定板の中央に空いた差込穴に埋込みパイプを差込み、埋込みパイプにあてがねを被せ、地面に打込みます。埋込みパイプのストッパーが安定板に当たるまで打込んでください。

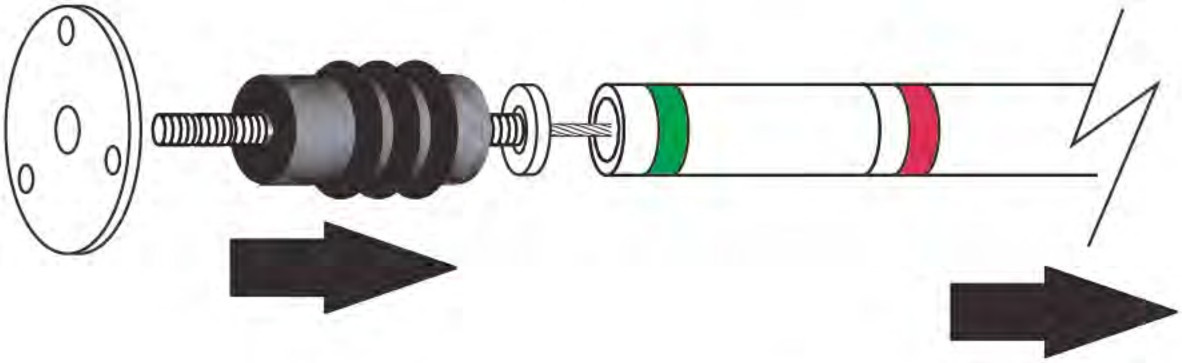


## ③ポール完備の組立て

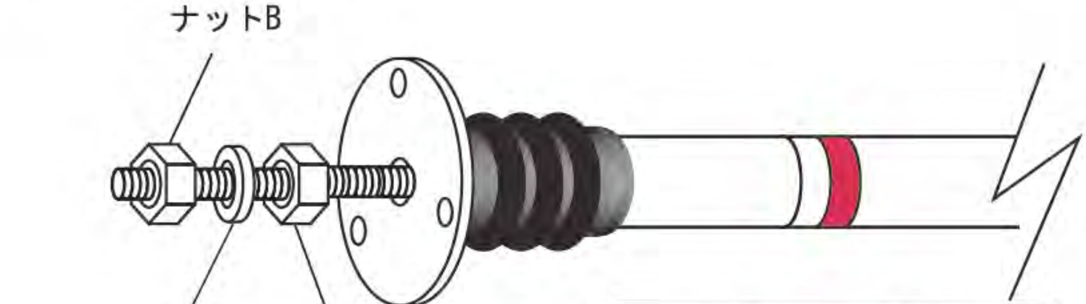
①ポールの色マークを確認し、黒→青→赤→赤→赤→赤→赤→緑の順でワイヤーにポールを差込みます。
ポールの順番、上下を間違えずに差込んでください。




②ワイヤーにワッシャー、上部ジャバラ、天板を通します。上部ジャバラは開口部が大きい方を下（ワッシャー方向）にして差込みます。



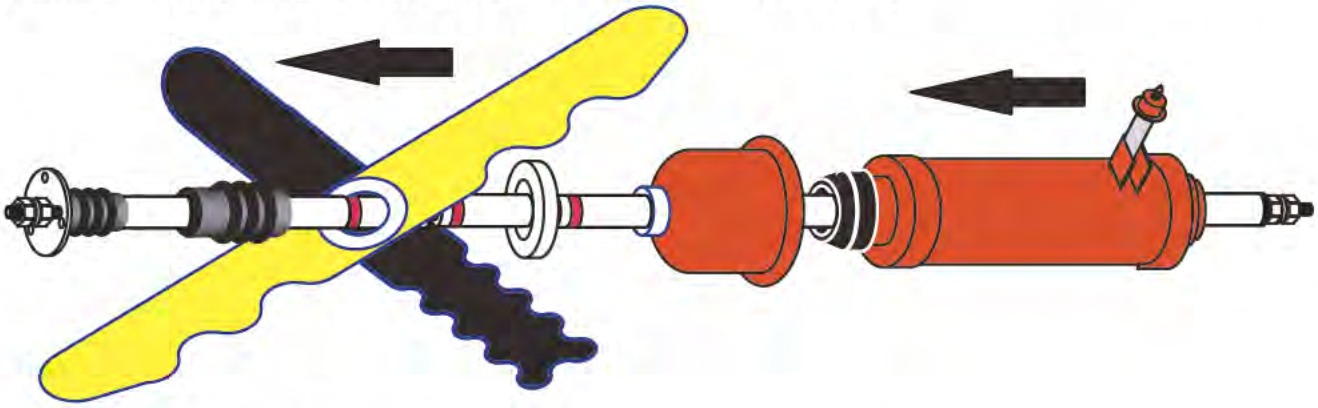
③ワイヤーの「ゆるみ」をとるようにナットAで締付けます。最後にナットAが緩まないようにナットBを締付けます。



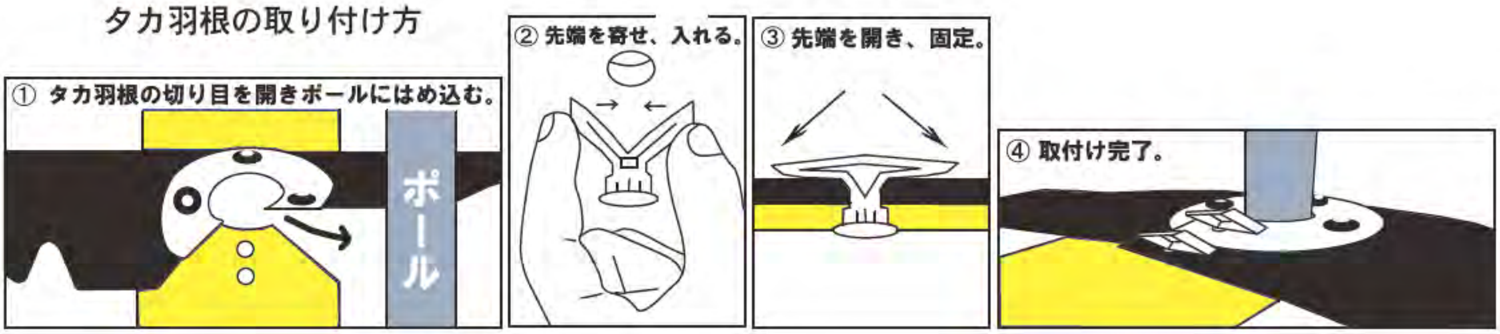

注）ワイヤーに「ゆるみ」があると、ワイヤーの断線の原因になります。

# ④ポールを立てる

①組立てたポール完備にジャバラ、タカ羽根、クッションゴム、発射体、発射筒の順で差込みます。順番を間違えないようにしてください。

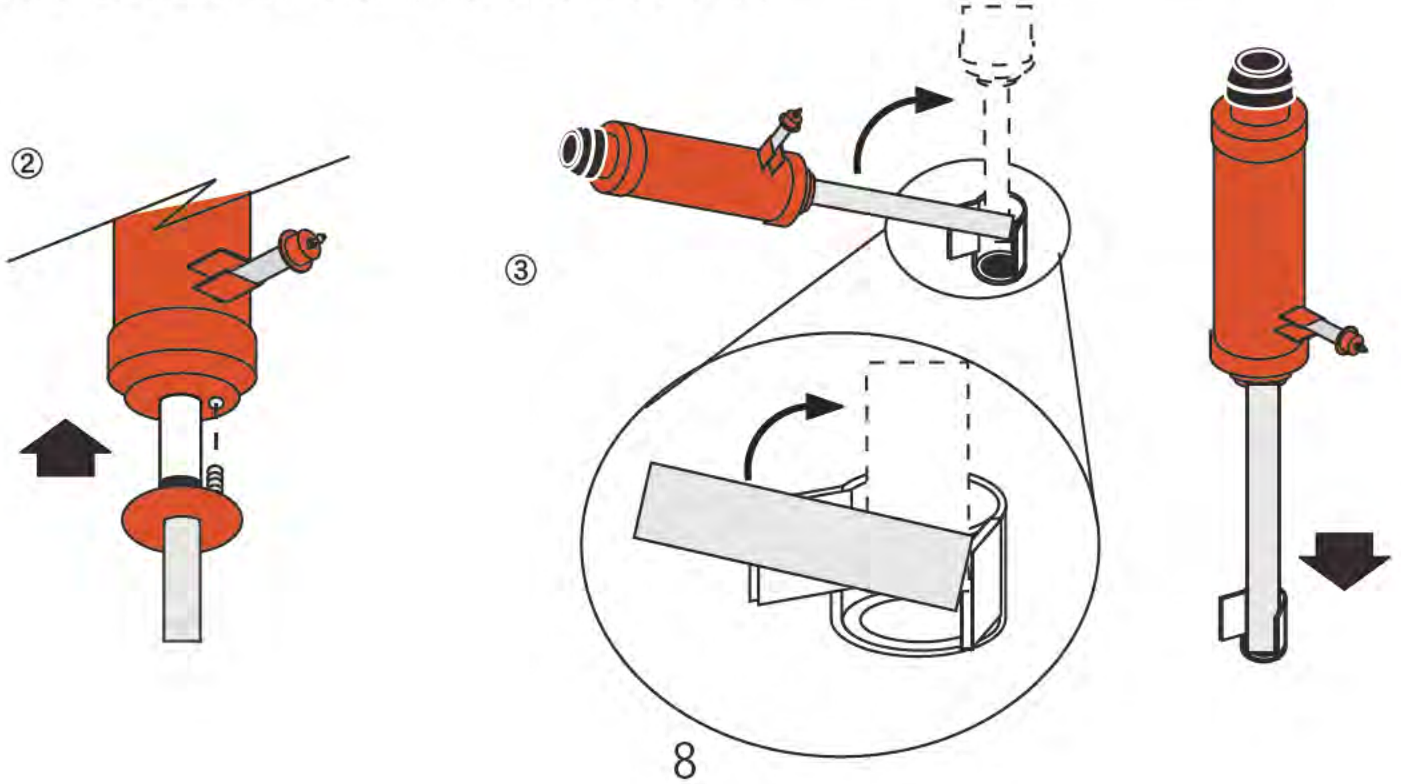


タカ羽根の取り付け方



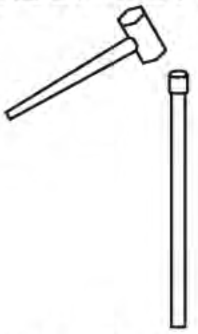

②発射筒の回止め穴と発射筒パイプの回止めネジの位置を合わせるようにして発射筒パイプをポール完備に差込みます。

③発射筒パイプの先端をパイプガイドに押し当ててポール完備を立てていきます。最後に埋込みパイプの穴に差込んで完了です。

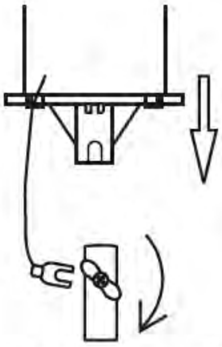


## ⑤電子コントローラの設置と配線

①打ち込みパイプに付属の当て金をかぶせ、打ち込んでください。



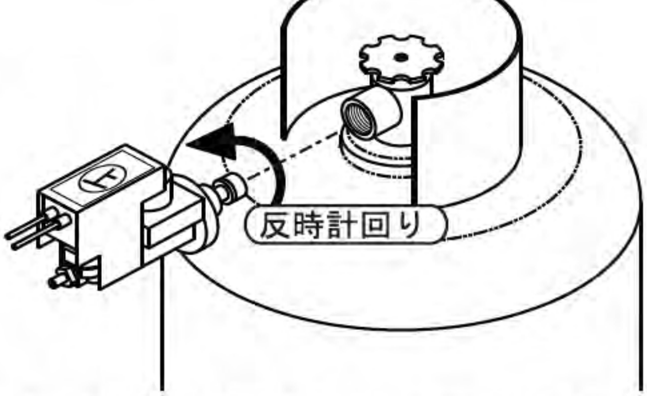
②打ち込みパイプの蝶ネジ側に電子コントローラの切込みがある面を合わせ、切込みを蝶ネジに挟み込みます。このときアース線のY型端子も一緒にはめ込み蝶ネジでしっかりと締め込んでください。



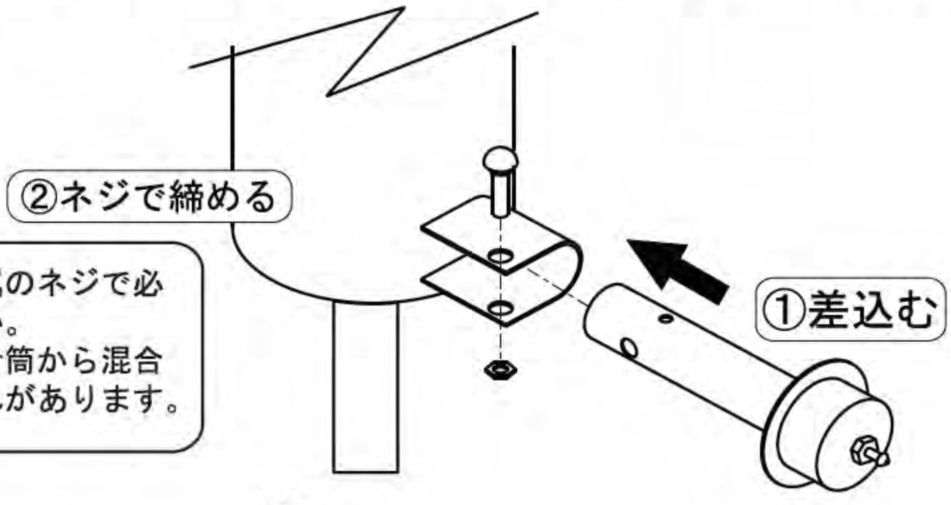
注）コントローラは樹木などの
物陰にならないように設置
してください。

③ガスボンベに調整器を取り付けます。ガスが漏れないようしっかりと締めてください。
調整器のネジは左巻きです。反時計回りに締めてください。
電磁弁カバーの㊤シールが上向きになるよう取り付けてください。

注）電磁弁カバーの上下を逆にすると
電磁弁の故障の原因になります。



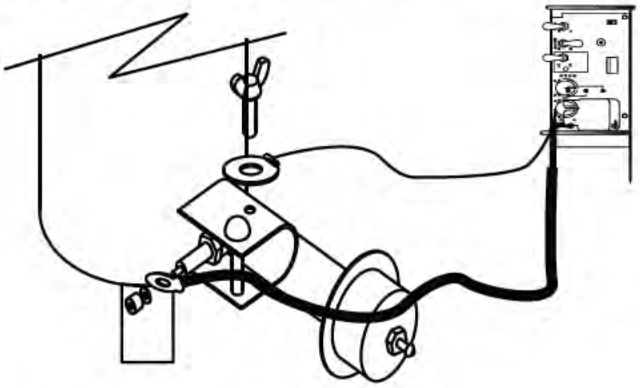

⑤混合管を発射筒の取付け穴に差し込み、発射筒付属のネジを締めつけ、混合管を固定します。




注）混合管は発射筒付属のネジで必
ず固定してください。
使用中の振動で爆音筒から混合
管が外れる　おそれがあります。

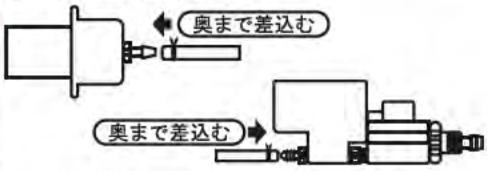
## ⑤電子コントローラの設置と配線

⑥高圧コードを混合管の点火プラグに取り付け、アース線の丸端子を混合管の蝶ボルトに取り付けます。



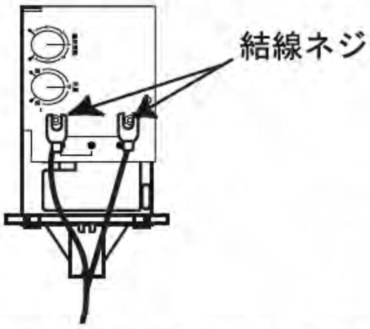
⑦ゴム管を電磁弁のバルブジョイントに差込ます。
この時、予めゴム管の先端にホースクリップを配置し、ゴム管と一緒に差込むとホースクリップの取付けが簡単になります。混合管のガス噴出管にも同様に取付けます。

注）ゴム管内にごみや泥などがあるとガス噴出管が詰って音が小さくなったり、鳴らないことがあります。取付けの際はゴム管にゴミや泥が混入しないようにご注意ください。



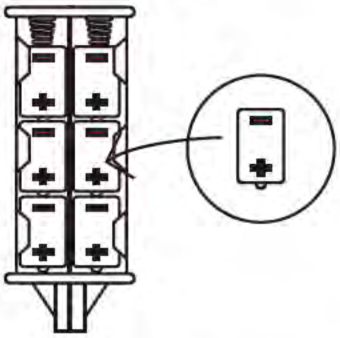

⑧電磁弁コードを電子コントローラに取り付け、結線ネジを締め込んでください。

注）電磁弁コードの取付に＋－の規則性はありませんので、結線ネジのどちら側に接続しても問題ありません。

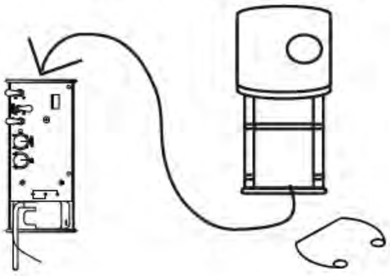



⑨電子コントローラ背面の電池挿入部にアルカリ単一乾電池６本を挿入してください。
乾電池は（＋）・（－）の向きを間違えないように挿入してください。

注）乾電池を挿入するときは必ず、コントローラを切にしてから行ってください。
また、乾電池の向きを間違えると基板の故障や、乾電池の液漏れのおそれがあります。



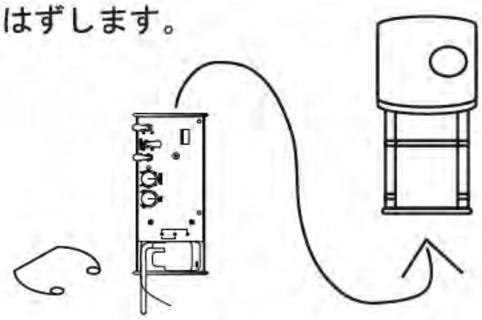
⑩最後に電子コントローラにコントローラーカバーを付け、外れないようにC型針金で固定し完成です。



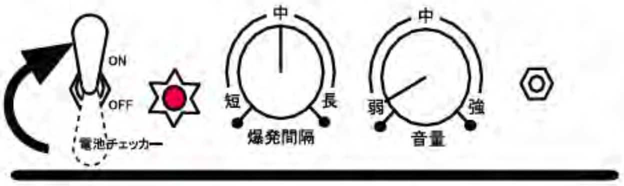
## ⑥コントローラーの操作（動作開始）

①電子コントローラから、コントローラーカバーをはずします。

注）ガスボンベ元栓は必ず
　　閉じた状態にしてから操
　　作を開始してください。

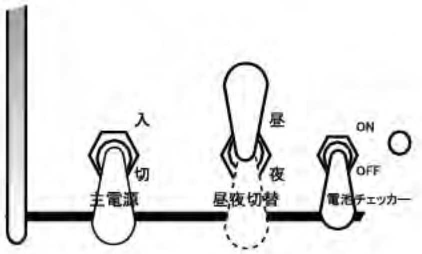


②電磁弁が電子コントローラに接続していることを確認した後、電池チェックスイッチを「ON」にします。チェックランプが点灯しない場合は電池が消耗しています。新しい乾電池と交換してください。

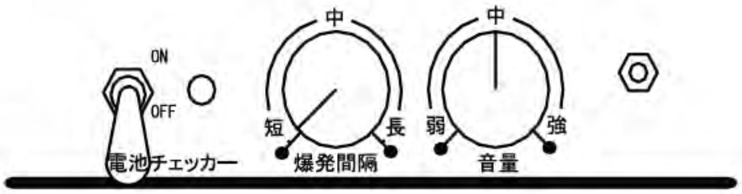



注）電池チェックは主電源スイッチが
　　“入”になっていると動作しません。

③昼夜切替スイッチを“昼”もしくは“夜”設定にします。



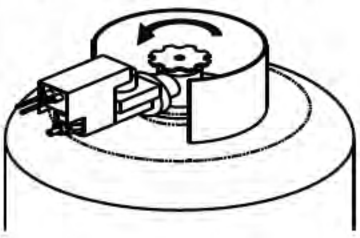

④爆音間隔・爆音音量のテストとして、爆発間隔ダイヤルを「短」、爆音ダイヤルを「中」に設定します。



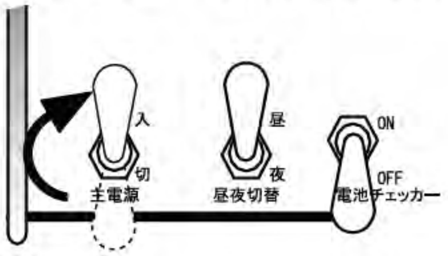

⑤ガスボンベの元栓を開き、主電源スイッチを“入”にして速やかに20m以上離れてください。
電源スイッチを入れてから約３０秒で爆音を発します。
旧基板（茶）型式：LPE-3と異なり、主電源スイッチを“入”にしても直後に爆音を発することはありません。

注）余分な空気を除去するため
　　開始直後の数回は爆音を
　　発しない場合があります。

１．バルブを開ける

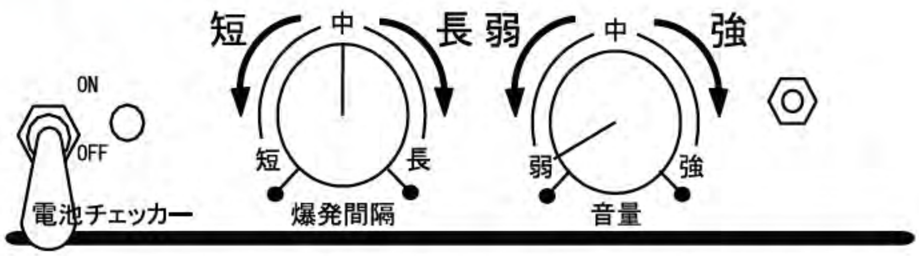


２、主電源スイッチを入にする

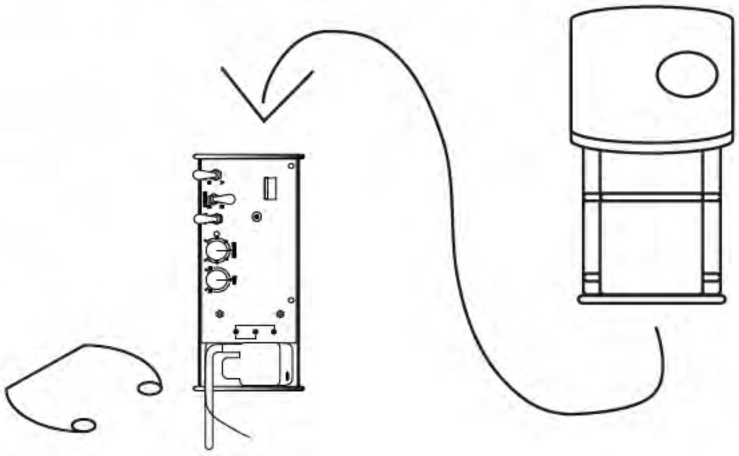


## ⑥コントローラーの操作（動作開始）

⑥数回爆音を確認し、設置した環境に合わせ爆音間隔、音量を調整してください。
爆音間隔は最短「短」約30秒～最長「長」約10分の間で調整可能です。
音量調節のつまみは音量の調節だけではなく発射体とタカ羽根の飛翔高さも調節しています。
発射体とタカ羽根はポール上部の天板にギリギリ当たらない程度でご使用ください。
天板に強く当てすぎると劣化を早めることとなります。(特に効果に変わりはありません)
爆音間隔や音量を調整する際には、爆音を聞いた後、速やかに本体へ近づき主電源スイッチを“切”にしてから行ってください。




⑦最後にコントローラーカバーを取付け、外れないようにC型針金をセットし完了です。

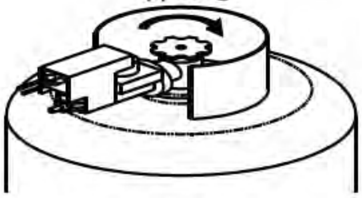


## 補足（ガスボンベの取扱いについて）

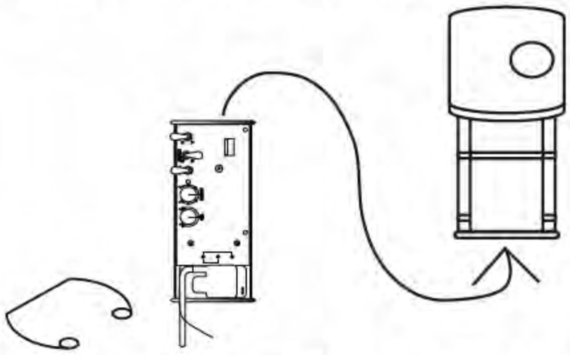
①ガスボンベは強い日差しを避け、風通しの良いところに設置してください。
②ガスボンベが転倒したり、破損することのないようにご注意ください。
③バルブの開閉は静かに行ってください。

# ⑥コントローラー操作（使用の中断、停止）

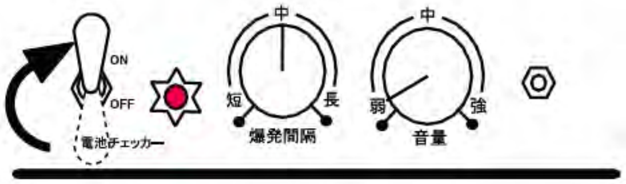
①ガスボンベの元栓を締めます。



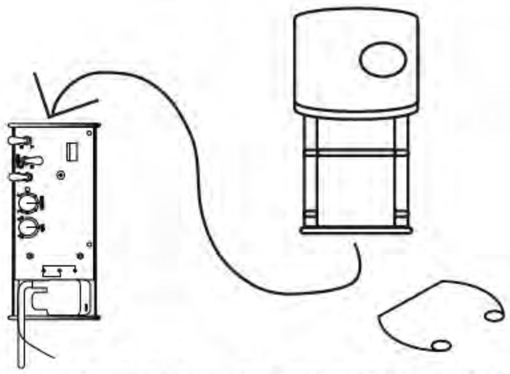

②C型針金を外し、コントローラーカバーを外します。



③主電源スイッチを“切”にして、電池チェックスイッチを２、３秒「ON」にし、電磁弁やゴム管に」残っているガスを放出します。
このとき、点火プラグは動作していないので、爆音を発することはありません。




④電子コントローラにコントローラーカバーを取付け、C型針金で固定します。



⑤長期使用しない場合は、乾電池を外し、風雨や直射日光が当たらないところに保管してください。
長期間屋外で放置すると、本体の劣化の促進や電池の液漏れなどの不具合を生じ、動作不良や故障の原因となります。

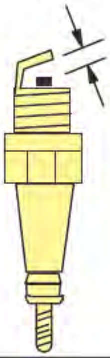
# 故障かな？と思ったら・・・（本体編）

## ⓪ チェックの前に！

**1. 乾電池の残量**
**2. ガスボンベの残量**

**この二つを確認してください**

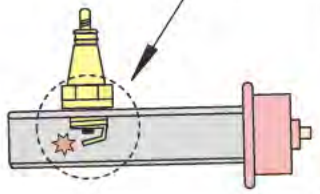
**② 点火プラグのスキマは、約2～2.5㎜ですか？**



スキマの目安は500円玉の厚みです。

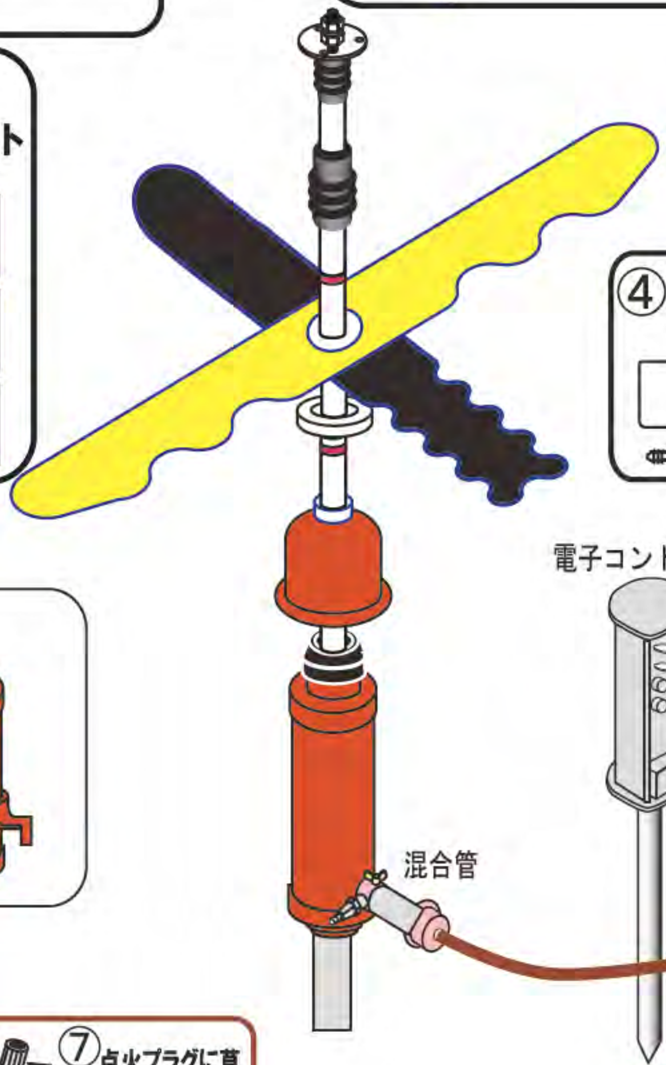
**③ 点火プラグの方向は？**

正しい方向にセットしてください。



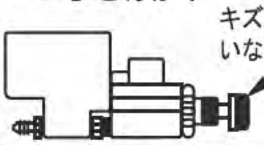
**① 乾電池は正しくセットしていますか？**

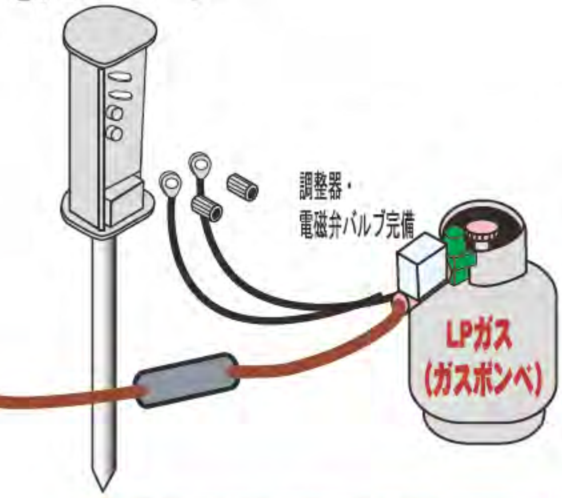
６本とも同じ方向です。



**④ 調整器ゴムパッキンが劣化していませんか？**

キズやヒビが入っていないことを確認してください。



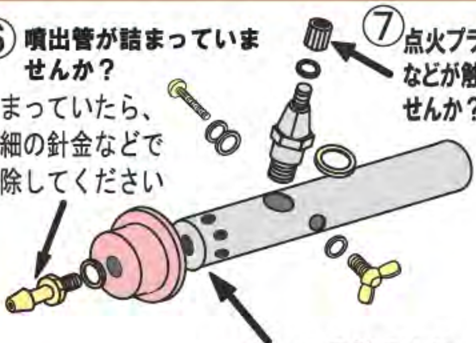



**⑤** 発射筒ゴムカバーが、外れていませんか。

**⑥ 噴出管が詰まっていませんか？**

詰まっていたら、極細の針金などで掃除してください

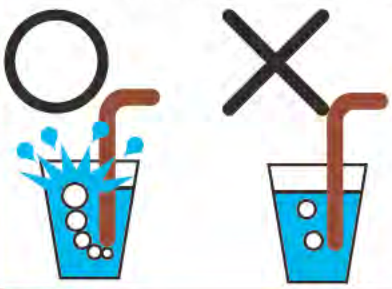
**⑦ 点火プラグに草などが触れてませんか？**



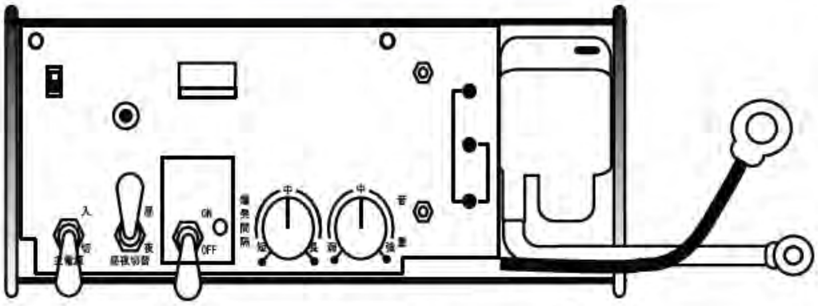
⑧ ココの管の中にカエルや虫などが詰まっていませんか？

**⑨ ガス漏れしていませんか？**

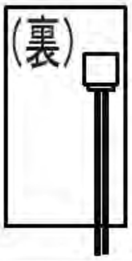
コップに水を入れて確認できます。
水があふれるくらい勢いが良ければ問題なし



## 故障かな？と思ったら・・・（電子コントローラ編）

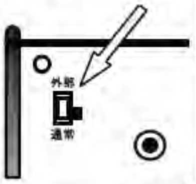



①
**プリント基板裏面の電源コネクターが外れていませんか？**

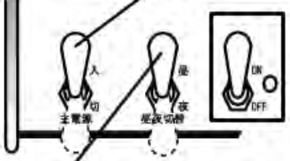



② **外部入力スイッチが外部側になっていませんか？**

スイッチが外部モードのときは正常に動作しません。



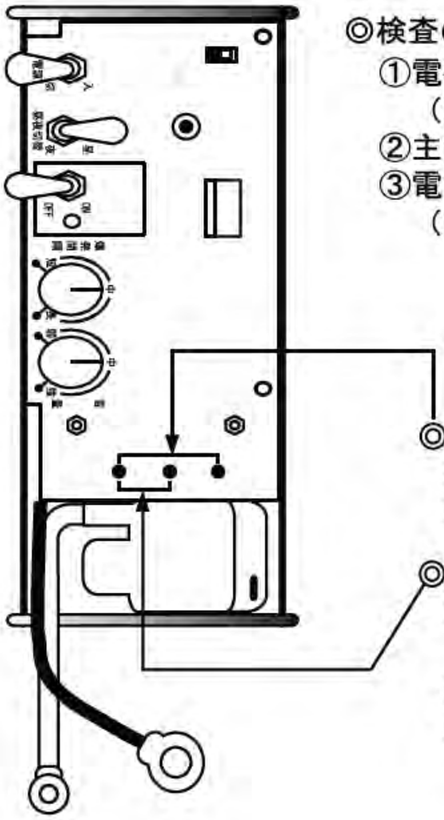

③ **主電源スイッチは“入”になっていますか？**




④ **昼・夜の設定は間違っていませんか？**

## 故障かな？と思ったら・・・（電磁弁と点火ユニット編）

（補足）これは動作不良が電磁弁と点火ユニットに起因するものか他に起因するかを調査する方法です。



◎検査の前に
①電磁弁コードを電子コントローラに取付けます。
（ガスボンベに取付けてある場合ははずしてください。）
②主電源スイッチを“切”にします。
③電池をセットします。
（電池残量が残っていることを確認してください。）

◎電磁弁の検査
①電磁弁チェック端子の両端を針金などでショートします。
②電磁弁から「カッチ」という開閉音がすれば、正常です。

◎点火ユニットの検査
①高圧コードとアース線の丸端子を１㎜程度離して、木台などの絶縁物の上にセットします。
②点火ユニットチェック端子の両端を針金などでショートします。
③高圧コードとアース線の丸端子間に火花が飛び「パチパチ」と音がすれば点火ユニットは正常です。

# 仕様・能力

| | |
|---|---|
| 電　　　　源<br>（電池別売） | 単一アルカリ<br>乾電池３本×２ |
| 重　　　　量 | １３．８Ｋｇ |
| 運　転　モ　ー　ド | 昼／夜 |
| 運　転　間　隔 | 約30秒～10分 |
| ガス使用期間（目安） | 注1）約１５０日 |
| 電池使用期間（目安） | 注2）約６０日 |

注１）１０Ｋｇボンベ使用で、音量は「中」に爆音間隔は「中」に合わせたときの使用期間です。
　　　ただし、お使いの状況により変動します。
注２）富士通アルカリ単一乾電池使用で音量は「中」に爆音間隔は「中」に合わせたときの使用期間です。
　　　ただし、お使いの状況により変動します。
★本仕様および外観は製品改良のため予告なく変更する場合がありますのでご了承ください


＊鳥獣害防止の得意技あります――。

タイガー株式会社

（ホームページ：http://www.tiger-mfg.co.jp）

**本社**

〒565－0822
吹田市山田市場10番1号
TEL:(06)6878－5421
FAX:(06)6875－5677
メール:info@tiger-mfg.co.jp

**東京支店**

〒262－0023
千葉市花見川区検見川町
5－2348－3－A
TEL:(043)298－4888
FAX:(043)298－4889
メール:animal@tiger-mfg.co.jp

**九州支店**

〒862－0969
熊本市南区良町2丁目8番12号
TEL:(096)378－0852
FAX:(096)378－0906
メール:kyuusyuu@tiger-mfg.co.jp


LPEH5130618M06